国労盛岡

発行所　国鉄労働組合盛岡地方本部
発行者　奈良岡克也
編集者　小林良宏
メールアドレス
nrumori@poem.ocn.ne.jp

2005.12.10
第1368号

みんなつけよう
国労バッチ

第2回東北協議会活動家交流集会

組織拡大が喫緊の課題

学習・交流の大切さを確認

国労東北協議会「第二回活動家交流集会」が一一月一三日〜一四日、宮城県松島町「パレス松洲」で開催された。一昨年まで開催されていた東北協議会主催のスポーツ交流を、「国労の将来展望を見据えて、活動家の育成を目的とし、東北三地本の比較的若い組合員の学習と交流の場」とする内容とし、昨年に続いての開催である。

東北三地本（盛岡・仙台・秋田）から活動家・役員含め四四人の参加者で（盛岡地本一三人）、外部講師の講義と組織内講師の講義による時間割単位で進められ、国労の将来展望を切り開くためにも、「現在の社会とJR会社の現状」を学習し交流することの大切さと、「組織拡大の必要性」を強く感じた、内容の充実した有意義な集会となった。

3地本から44人が参加

＝講議と闘いの報告＝

東アジアの経済の現状を話す畑隆富士常葉大学教授

太田東北協議会事務局長（仙台地本委員長）の司会で始められた集会は、主催者を代表して青木議長（秋田地本委員長）が「国労運動の前進のためには、比較的若い組合員の育成が重要と考え集会を開催している。参加している組合員が一つでも二つでも成果を持ち帰り、職場での実践から運動の前進を期待する」と挨拶。引き続き太田事務局長の「起立・礼・お願いします」の掛け声で一時限目の講義が開始された。

一時限目は、JR二〇年検証委員会の安藤陽氏（埼玉大学教授）から「JRの検証」と題して講義を受けた。安藤氏は、「国鉄改革の目的、国鉄改革を総括する視点、JRの下での鉄道経営で何が明らかになったのか、JR西日本・福知山線事故が明らかにしたこと」等について講義し、特にも安全問題に関しては「経済同友会は企業白書の中で、企業の社会的責任の重要性を強調し、民間企業といえども利潤追求といった経済的価値だけではなく、社会的価値や人間的価値を重視しなければならないと述べている」ことを照会し、経営者が利潤追求ではなく安全優先を考える社会的責任があることを強調した。また、「基幹鉄道・安全輸送・環境保全・労使関係・利用者・交通権（国民の移動する権利）」の六つのキーワードを上げ、「若い人がどんどん入って来るような組合のためには、キーワードをしっかり取り組むことが必要である」と、激励を込めた丁寧な講義を行った。

二時限目は、畑隆氏（富士常葉大学教授）から、「東アジアの経済（中国を中心に）」と題して講義を受けた。畑氏は「中国の目覚しい発展から、日本を含む東アジアの経済を読み取ることができる」と述べ、GDP等の数値を基に「数字の上からも中国の発展は見られる。日本との関係は、対外直接投資の増大や、中国国内の建設ラッシュで鉄鋼等の輸出が増大することにより、日本の大企業が利潤を上げている実態」を紹介し、現状は「交通事故死者日本の十倍。東部・中部・西部の経済格差も深刻な問題となっている。今中国は資本主義とは違う社会主義市場経済の壮大な実験をしている。日本との違いは労働者が実権を握っていることにある」と、経済についてわかりやすい講義を行った。

二日目、一時限目の講義は高野苗実東日本本部書記長が「東日本本部の取り組みと課題」と題して講義。二時限目は、髙嶋昭一交運共済東北支所事業副本部長が「交運共済生協の現状と課題」と題して講義。三時限目は、田中博文中央執行副委員長が「国労の現状と課題」と題して講義。組織内講師がそれぞれの立場から、「諸闘争の前進を目指し団結して闘うことの大切さと、組織拡大が現在の喫緊の課題である」ことを強く訴えた講義が行われた。続いて学習と交流の感想を含めて全体討論が行われ、三地本五人の参加者から各自の職場の実態と闘いの報告を受けてまとめとし、最後に前日の「国労東北協議会第二〇回定期総会」で就任した、奈良岡新議長（盛岡地本委員長）の団結ガンバローで集会を終えた。

当面の主な日程

▽12月18日　東北貨物協議会第15回定期委員会
▽1月7日　青森支部旗開き
▽1月10日　社民党・平和環境岩手県労組センター合同旗開き
▽1月12日　社民党・青森県平和推進労組会議合同旗開き
▽1月15日　盛岡支部旗開き

組織拡大キャッチコピー募集

〈総額10万円相当の景品贈呈〉

配属差別事件・昇進差別事件のJR会社との和解は不当労働行為のない、正常な労使関係、国労組合員が不公平感を感じることのない職場作りの一歩です。国労組合員であっても差別されることのない職場作りの中から、組織の展望を開かなければなりません。全組合員が大胆に組織拡大を意識できるキャッチコピーを募集します。

【募集要項】

①応募資格は、組合員とその家族とし、一人一コピーとします。
②応募作品を厳正に審査し、最優秀賞・優秀賞2・佳作2を選出、総額10万円相当の景品を贈呈します。
③審査発表及び贈呈式は3月開催予定の第116回拡大地方委員会とします。
④キャッチコピーと分会・職場・氏名を記入し官製はがき・FAX等で左記宛にお送りください。
・020―0033　盛岡市盛岡駅前北通り4―4
・国労盛岡地方本部教宣部「組織拡大キャッチコピー募集」宛
・FAX　NT019―651―7720　鉄電033―2277
⑤締め切り　2006年2月20日（月）
※最優秀賞のキャッチコピーは今後各種会議等の資料に載せ、組織拡大の意識高揚を図る目的で活用します。

両支部定期大会

闘争方針を確立し新執行体制を確立

一一月二六日に盛岡支部定期大会、同二七日に青森支部定期大会がそれぞれ開かれ、当面する闘争方針を確立した。

なお、今年の大会は役員改選の年度となっており、次のとおり役員が選出された。

◇

〈盛岡支部役員体制〉
▽執行委員長
斎藤　庄司（盛岡運輸区）
▽執行副委員長
佐々木研司（雫石駅）
佐藤都久雄（水沢駅）
▽書記長
沢田　光広（二戸・仙建）
▽執行委員
米田　勝義（盛岡車両セ）
中堤　聡司（盛岡保技セ）
戸田　智章（盛岡総鉄）
▽会計監査員
工藤　公平（盛岡幹車両セ）
田中　光（IGR沼宮内駅）

〈青森支部役員体制〉
▽執行委員長
奈良岡克也（青森運輸区）
▽執行副委員長
阿部　一久（八戸運輸区）
▽書記長
笹山　賀庸（八戸幹保技セ）
▽書記次長
長崎　識義（八戸駅）
▽執行委員
横内　俊博（青森保技セ）
高橋　清光（青森車両セ）
石田　春夫（八戸電メセ）
高瀬　貴弘（青森駅）
野村美津男（八戸駅）
成田　芳隆（青森保技セ）
▽特別執行委員
小泉　正直（青森運輸区）
▽会計監査員
野村　隆博（青森車両セ）
田高　修司（青森総鉄）
長内　専悦（青森信メセ）

東北独自の取り組みを意思統一

「第20回東北協議会総会」

第二〇回国労東北協議会定期総会が、宮城県松島町「パレス松洲」で三地本からの代議員、役員含め二〇人の参加者で開催された。

総会では、具体的な取り組みとして、①〇六春闘総決起集会（三月一〇日）の開催②地本間の連携を強め、青年活動家の育成・強化③地方貨物協議会の活動支援④東北交運労協に幹事を送り、交流を深め、交運労協の強化に努める―等の取り組みを意思統一した。

なお、役員の改選も行われ奈良岡盛岡地本委員長が議長に就任した。役員体制は次のとおり。

◇

議長　奈良岡克也（盛岡）
副議長　瀬下　一司（秋田）
副議長　太田　博二（仙台）
幹事　渡邊　敦（秋田）
幹事　高橋　伸二（盛岡）
幹事　大沼　元（仙台）
幹事　木村　昭光（仙台）
会計監査　沢田　光広（盛岡）
会計監査　伊藤　正利（秋田）
※木村幹事は貨物協代表。太田副議長は事務局長も兼ねる。

ていこう

一二月三日に平和環境岩手県労働組合センターの、第一四回定期総会が岩手労働福祉会館（盛岡市）で傘下単組代議員、関係者約一〇〇人が参加し開催されました▼県労組センターの齋藤健市議長の挨拶は、まず最初に第四四衆議院選挙をどう捉えるかと言うものでした。国民の意識の思いが…、今回の小泉自民党の大勝利を生み出した要因と、分析する方もいると言うのです。今、国民の中に「勝ち組」「負け組」と言う意識があり、大半の労働者は「負け組」で「勝ち組」は一握りの労働者です。「負け組」の中でも公務員は上という意識が国民の中にあり、このことが「郵政民営化」の是非、改革を止めるのか・進めるのかの二元論に終始することにより、選挙の争点をぼかす巧みなパホーマンスなどの「小泉劇場」に目を奪われ、結果として自民・公明の三二七議席につながり、このことが「国民の意識の思いが」選挙結果に表れたと、分析していると言うのです▼この挨拶を聞いて、私たちが、国鉄「分割民営化」の攻撃に晒された時、国民が国鉄の存在意義をどれだけの人が考えたのか。分割民営になっても鉄道は残る、それは廃止の不安がない大都市に受け入れられたのだとしたら、郵政公社も同じ道を歩んでしまったのか、時としてその時々の政治の流れ思惑に違いはあるにしろ、必要とされている地方の鉄道は分断をされ、廃止された鉄路は数をしれない▼地方の郵便局も必要とされながら、無くなることだけは阻止しなければならないと思う。国鉄闘争を闘っている私たちの運動と、何一つ違わないのだから（信）

地本運輸職場交流

苦楽を共にした仲間 42人が有意義な一日

立冬を迎えた一一月一九日、岩手労福会館（盛岡市）において地本内全運輸職場の交流会を開催しました。

乗務員は、他乗務員と顔を合わせることが多くても意見交換を図れる機会が少ない。これを解消する目的で一三年前、青森・盛岡運輸区の交流会から始まりましたが、地域間異動一・二巡目発令や配転、玉突き転勤等、各職場で余裕がなく開催できない月日がありました。

二〇〇二年一二月のダイ改で特急はつかりが廃止となるのをきっかけに、関係乗務員職場（青森・八戸・盛岡）の三区交流会を開き、意見交換の重要性を再認識し二〇〇四年一二月から地本内全運輸職場（車掌・運転士）に呼びかけ開催しているものです。

当日は、菊池地本副委員長、佐々木盛岡支部副委員長も参加し、昇進差別事件和解以降の各分会での運動のあり方、意思統一の在り方等の報告を受け、限られた時間（一四時から一六時三〇分）を有効に活用したいとの暗黙の了解で参加職場（青森・八戸・盛岡・宮古派・北上派・一関）の挨拶は手短に進みました。

参加者は、四二人ですがそこは地域間先で苦楽を共にした仲間、日帰りでの交流では物足りないとの声もありましたが、翌日の勤務者は運転取り扱い従事者としての自覚を持ち一次会で帰宅。休日者は開催地盛岡の分会長が手配した二次会へとなだれ込み（二六人）、終電まで粘り強く続け、別れを惜しんでの交流でした。

ＪＲ発足後一九年の月日が流れ各職場では出向・転勤・地域間異動・異系統職種への配転、会社間格差等、国労組合員をはじめ多くの社員が不安や疑問を抱えています。交流会は、それらを聞き入れ、意見をぶっつけ合い、解決に向けた運動の重要性を確認した有意義な一日でした。こうした交流会を他の職協でも企画してみては・・・・・と思います。

盛岡運輸区分会　伊藤　淳

和やかに交流を深めた

国鉄闘争への支援を要請

平和環境岩手県労組センター総会

総会には約100人が参加

平和環境岩手県労働組合センター第一四回定期総会が、一二月三日盛岡市・岩手労働福祉会館で県内の単産・単組・地区・地方労の代議員含め約一〇〇人の参加者で開催された。（国労代議員四人）

総会は、議長団に佐藤（県職労）・及川（岩教組）両氏を選出して進められ、センター幹事会を代表して齋藤健市議長は「九月の総選挙は小泉政権に鉄槌を下すべきところが逆になった。正規・パート・派遣・アルバイト等の労働者の多様な雇用形態の意識が連携できなかった。連合に持ち込めない問題を行うことでセンターが発足した。未組織・弱者の意識にたった運動の構築が必要だと感じる。憲法改正が何時されてもおかしくない情勢にある。『憲法をいかし広める岩手の会』の運動の広がりを強めることが大切だ。二〇〇七年七月の参議院議員選挙に向けた運動を進めよう」と挨拶。

続いて来賓挨拶の中で、小原宣良社民党岩手県連合代表は「外交も軍隊を持たないとなめられるから持つとの改憲組の考えは間違っている。軍拡の拡大では平和は守られないことを強く訴える。二〇〇七年の地方選・県議選に向け準備を進める。ご支援をお願いする」との挨拶を含め、労働者福祉団体四団体・憲法をいかし広げる岩手の会から連帯の挨拶が行われた。

方針討論では国労の菊池代議員から、この間の物心両面に渡る国鉄闘争支援に対する感謝と一二月七日に取り組まれる「岩手県内共闘関係・国鉄闘争支援要請行動」に対する更なる協力要請、九月一五日出された、一部闘争団が鉄建公団を相手に起こしていた裁判の判決が持つ意味について発言を行なった。今年は役員改選期であり新議長に砂金文昭氏（岩教組）、事務局長に齋藤健市氏（自治労）を選出した。

東日本本部運転協議会

初冬の平泉の地で 79人が参加し交流

一一月一三日、一四日に第一六回東日本本部運転協議会交流会が岩手県平泉のホテル武蔵坊で七九人（盛岡は二三人）の参加で開催されました。

交流会は、武笠エリア同会事務長の開会挨拶、座長に盛岡運転分会の川原昭氏を選出し進められました。その後、地元の高橋地本書記長、佐藤同運転協議会議長、鈴木一関運輸分会がそれぞれ挨拶に立ち、「安全面・公共交通面等での運転協の役割は大きいものがある。特に盛岡は、平行在来線と貨物輸送を守る運動等、需要な課題ある」「ＩＧＲアンケート調査を生かした運動を展開していく」こと等を強調しました。

懇親会は、D51合唱団の歌声で始まった。

茂木同エリア本部議長は、「平成一六年度諸手当改正が行われ、祝日手当ての支給範囲の縮小、特殊勤務手当ての廃止などがあった。今年も制度・手当改善に関する申し入れを行う。運転協としても要求実現に向け団結して取り組もう」と訴えた。その後、高嶋全交運共済生協東北支所副本部長の激励挨拶、高野東日本本部からの情勢報告を受け、記念講演に入りました。

記念講演は、「規制緩和がもたらしたもの―航空分野からの検証」というテーマで牧野進航空労組連絡会顧問から、規制緩和の狙い、それにより航空分野では、内外を問わず安全や公共性が切り下げられている現実が話され、労働者が連帯してこそ、その流れが止められるとした。

夕食懇親会は、記念アトラクション・D51合唱団の力強い歌声で始まり、各地本の紹介とで初冬の平泉で大いに盛り上がりました。

盛岡運転協議長　佐藤英雄

【地本鉄道電話ＦＡＸ番号の変更】

地方本部鉄道電話のＦＡＸ専用の鉄道電話回線を経費削減の目的で回線をＦＡＸ兼用に変更しています。廃止ＦＡＸ番号は、０３３—２２９９

◎鉄電ＦＡＸ兼用番号は
０３３—２２７７

◎ＮＴＴは
０１９—６５１—７７２０（変更なし）

書籍紹介

汽笛を鳴らして

澤藤善穂　著

一九九九年一月に退職された先輩である澤藤善穂氏（元盛岡車掌区分会書記長）が、このほど「辛口時評綴帳・汽笛を鳴らして」（二、三一〇円）と題する本を自費出版した。「鉄路の軋みにたぎる義憤」「民意軽視に反骨の心騒ぐ」「不戦・戦争の放棄の理念熱く」の三部構成になっており、澤藤さんが三〇年余に渡って岩手日報論壇、国労文化等への投稿、寄稿の記事等を中心に約二六〇頁ものになっている。

澤藤さんは、盛岡車掌区時代本務を外され、車掌に戻ることなく退職を迎えた。是非、組合員が一読を。

＜申込先＞TEL019-647-8176
盛岡市北天昌寺町18-12
澤藤　善穂
※地方本部教宣部でもok

僕のがん保険は、
病気もケガも保障する。
しかも、保険料が一生上がらない。保障が一生つづく。
がん保険を選ぶなら、アメリカンファミリーです。
新 健康応援団MAX
終身タイプ
21世紀がん保険 + 特約MAX21

「がん」の生涯保障〈21世紀がん保険〉

BESTプラン・1倍	ご本人の保障
初めて診断されたとき	〈一時金として〉 がんの場合 100万円 上皮内新生物の場合 10万円
入院したとき 安心の無制限	1日につき 10,000円
手術を受けたとき	1回につき 20万円
高度先進医療を受けたとき	技術料に応じて 6～140万円
通院したとき	1日につき 5,000円
がんで死亡したとき	10万円

・保険期間:終身　・契約年齢:満3歳～満80歳　・解約払戻金0コース

プラス

がん以外の「病気・ケガ」の生涯保障〈特約MAX21終身タイプ〉

ケガの保障は90歳までとなります。	ご本人の保障〔本人型〕
病気で入院したとき ケガで入院したとき 日帰り入院も保障※	1日につき 5,000円 （1日目から）
がんを含む病気・ケガで所定の手術を受けたとき 日帰り手術も保障	1回につき（手術の種類により） 5・10・20万円

・保険期間:終身（ケガの保障は90歳までとなります。）・疾病・災害入院給付金日額5千円
・契約年齢:満3歳～満80歳（本人型）・1回の入院については124日まで保障 ※日帰り入院（1日入院）とは、入院日＝退院日の入院で、入院料の支払いの有無で、入院であるかどうかが判定されます。
◎詳細はパンフレット、ご契約のしおり・約款をご覧ください。

〈引受保険会社〉
自信があります。私の医療保険。
AFLAC アメリカンファミリー生命
東京第三営業本部 第三支社　☎03-3344-1889
〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
AFN 104-2004-029 5月25日

■募集代理店
アベニール 株式会社　☎03-3437-6810 FAX03-3437-6822
〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F

■事務上の問い合せ先
盛岡国労会館　☎019-652-4841 FAX019-652-4855
〒020-0033 盛岡市盛岡駅前北通4-4